



新年のごあいさつ

～創立50周年記念特別号に寄せて～

社会福祉法人足羽福祉会
理事長 高村 昌裕

新年明けましておめでとうございます。

昨年は足羽福祉会の創立50周年を記念して、さまざまな記念事業を企画し、多くの皆様と節目の御祝いを共有できましたことを心から御礼申し上げます。

2年前に各事業所より選抜された職員による記念事業準備・実行委員会を発足させましたが、25年前に記念式典と記念誌を製作して以来、周年事業を行っておらず、実行委員は何をどのように準備していけばよいか、まったくの手探りからのスタートとなりました。最初は右往左往した話し合いが続きましたが、半年かけてキャッチフレーズである「感謝を胸に『共に生きる』これからも」と、ロゴマークを決めました。

昨年に入り、実行委員をイベントチームと記念誌チームに分けてからは、それぞれが内容の質と時間を意識しながら、具体的な検討を進めました。迷ったときには「支えてくださった大勢の方々に自分たちらしく、感謝の想いをどう伝えるか」「自分たちの未来にどうつなげていくか」がぶれないよう議論を重ねました。

3月の第5回足羽川ふれあいマラソンを皮切りに各拠点、事業所でも夏祭りや敬老会等イベントの際には、より多くの地域の方々に参加していただけるよう工夫を重ね、これまでの50年の歩みと感謝の想いを表させていただきました。

そして創立記念日の10月1日にはユー・アイふくいにて記念式典を行い、福井県藤田副知事をはじめ、多くのご来賓のご臨席の下、お世話になった関係者、地域の協力者、ボランティア、歴代の役職員、そして50年共に歩んできた利用者の方に感謝を伝えることができました。園児の太鼓やみこし、職員のコーラス隊や若手職員の未来宣言、ビデオメッセージなど、できるだけ多くの利用者の方や職員にか

かわっていただきながら、式典を盛り上げました。

私も式辞の中で、これまでの歩みに感謝しつつ「共に生きる」という理念の実現に熱い想いをもって取り組むことこそ、諸先輩から引き継いだ「足羽のDNA」だと話しました。式典の後、あるOBの方から「これまでのいろんな思い出が蘇って、胸がスーッとしました。ありがとう」という言葉をいただき、自分たちらしく手作り感満載で取り組んだ想いが伝わった気がして、晴れやかな気持ちになりました。

残された企画は記念誌作りのみです。実行委員はチームワークを一層発揮し、完成に向けた編集作業に追い込みをかけています。過去から現在、未来へと、利用される方やご家族と共に、地域社会と共に、そして職員と共に「共に生きる」かたちを表現しますので、乞うご期待!!

51年目となる本年も、一人ひとりの人生に寄り添う伴走者となり、地域社会のさまざまな生活課題の解決を目指す存在となり、職員同士も互いの強みや弱みを補いながら、働きやすい職場となるよう役職員みんなで明るく、前向きにチャレンジしてまいります。何卒よろしく願いいたします。

